



# お知らせ

Vol.6

令和2年が明けて9カ月。本来であれば“オリンピックイヤー”となるはずの今年は、私たちが未だかつて経験したことがない全く別の意味で特別な年になってしまいました。

日常生活が激変し、お仕事をしている方はテレワークやリモート会議などそれまでのワークスタイルが大きく変わり、またすでにリタイアした方とりわけ高齢の方は、これまで以上の健康管理が求められています。

この『お知らせ』は8月下旬に作成していますが、皆さんにお届けする9月下旬には少しでも好転しているのでしょうか、それともまだ不透明な状況が続いているのでしょうか。いずれにしても世界中の人々が叡智を結集して一日も早くこの感染症を克服することを切に願っています。

そしてまた、以前のように整会の皆様と笑顔でお会いできる日を心待ちにしています。

整会事務局

## 2019年同窓祭・総会・懇親会実施報告

9月23日(月・祝)



整会として4回目の参加となる同窓祭及び整会総会・懇親会が昨年9月23日に開催されました。以下写真とともにご報告します。

●**講演会** 陰陽道研究の第一人者の山下克明氏(古美研OB)に『陰陽道と日本の文化 -ここまで わかった陰陽道・安倍晴明-』と題してお話していただきました。約90名の聴講者は皆熱心に聴き入り、講演後も専門的な質疑のやりとりがありました。

●**展示会** 古美研部室に保管された約半世紀前の資料も含めた貴重な書類・写真を展示しました。総会議事録、夏合宿や青山祭の資料、スナップ写真など懐かしいものばかりで、あちこちで想い出話に花が咲きました。

●**総会** 議題は①事業報告、②収支報告、③会則変更、④役員改選の4件で、すべて原案通り承認されました。議事録は整会HPに掲載されています。なお会則変更で、これまで2年毎に開催の総会が、1年毎に変更されました。

●**懇親会** 総会終了後、宮益坂にあるイタリアンレストランで開催。会場はほぼ貸し切り状態で、例によって料理・お酒・おしゃべりを十二分に楽しみました。当日の写真は整会HPに掲載されています。



## コロナ禍の影響で…

2020年同窓祭中止!  
整会総会の書面開催!

2月初旬にダイヤモンドプリンセス号での感染拡大が話題になった頃、感染症の怖さのある程度認識はしていたものの、今日の状況まで全世界的に影響が拡大することには、とても想像が及びませんでした。

コロナ禍の影響は整会も例外ではなく、次のイベントが中止(延期)になりました。

●古美術を語ろう会「都心の残影～私たちの知らない時代の東京巡り」(4月19日)

●同窓祭講演会・展示会(9月22日)

●整会総会(9月22日) ※書面開催とします。

この他にも会員有志の次のイベントが中止(延期)になりました。

同封の書類をご覧ください。

●68～72年卒OB・OG京都方面旅行(4月)

●古美研OBサロン(4月・6月・8月)

●庭園班OB・OG同窓会(5月)

先が読めない状況が続きますが、終息の暁にはぜひこれらのイベントの復活開催を願っています!

なお長い間OBサロン開催(2012年から本年2月まで49回)にご協力いただいた『むつ新』(75年卒伊藤睦さん経営)が閉店しました。大変残念なニュースではありますが改めてこれまでの伊藤さんのご協力に感謝します。

伊藤さん談：今年で開店20年ですが以前から私を含めスタッフの高齢化やビルとの契約更改などがあり、今後のことを考えていた矢先にコロナ禍に見舞われ、残念ながら閉店することになりました。古美研OBの皆さまにはこれまでご最厚いただき大変ありがとうございました。



## ■ 青学古美研への支援と交流活動の報告

### ● 古美研部室に保管庫・本棚を寄贈 2019年11月

昨年、古美研部室に保管されていた創部当時から古い資料を同窓祭会場で展示しました(前頁参照)。これらの資料は部室内の保管庫に収納されていますが、現役の資料と混在し、また保存場所が不足気味でした。このため今後も引き続き部室で適切に保管してもらうべく保管庫1台を寄贈しました。合わせて棚板がはずれ危険な状態だった本棚を交換のため新たに1台寄贈しました。

### ● 青山祭 2019年11月3日

今回の青山祭での古美研展示は学院外の施設、国道246沿いの岡崎ビルB1にて行われました。贅会から飯田・亀村副会長と山崎(井上)役員が代表で展示を見学し、最終日の打上げコンパに参加しました。コンパの席上、贅会から例年同様支援金を贈呈しました。

### ● 意見交換会 2020年1月15日

今年も古美研新役員と意見交換会を実施、贅会は長谷川会長、飯田副会長、大向(佐野)役員が、現役は吉澤会長、又木副会長、小山総務部長が出席しました。長谷川会長より贅会の概要・活動内容などを説明し、現役からは現在の活動状況や課題などについて報告がありました。

### ● 追い出しコンパ 2020年2月23日

渋谷スペイン坂近くのお洒落なお店で今年の卒業生の追い出しコンパが行われ、贅会からは長谷川会長、飯田・亀村副会長の3名が出席しました。卒業生は10名。新たに社会に旅立つとともに我が贅会の“新会員”になります！



## ■ 古美術を語ろう会「写経体験と東京都庭園美術館巡り」実施報告

昨年11月17日(日)、東京はとても気持ちの良い快晴の一日でした。恒例の古美術を語ろう会、今回は五反田の薬師寺東京別院での写経体験と、白金台の東京都庭園美術館の見学です。参加者は13名。

薬師寺では昭和43年より当時の高田好胤管主の発案で、白鳳伽藍復興のための写経勧進が行われており、すでに850万巻を超える“善男善女”の写経が奈良西ノ京の本山お堂内に納経されているそうです。

お寺の方から写経の心得を教えていただき、丁子を口に含み輪袈裟(わけさ)を首にかけ心を落ち着け墨をすり、276文字の般若心経をただひたすら書き写しました。

東京別院で書き写した私たちの写経も本山で永代供養されました。(写経場は残念ながら撮影禁止です。)

目黒駅前まで徒歩で移動し昼食後、庭園美術館へ向かいました。

旧朝香宮の邸宅で、その後吉田茂が大臣公邸として使用した建物は、アールデコ様式と日本古来の高度な職人技が融合した歴史的建造物で、現在は美術館として開放的な西洋庭園、日本庭園とともに美術愛好家に親しまれています。フランスのガラス工芸家ルネ・ラリック(1860~1945)の作品も見どころの一つです。

最後は希望者で目黒駅前のイタリアンバルにて“語ろう会”。ピザとワインを楽しみ、古美術談義に花を咲かせました。



## ■ 74・75年卒合同同期会が京都で開催されました。

在学時代毎年8月下旬に行われる古美研夏合宿、京都の常宿は『三木半旅館』でした。現在は往時の建物ではなく改築されましたが、今回同旅館で74・75年卒合同同期会を昨年8月25日(日)に開催しました。

当日の参加者は15名。昔懐かしい六角麩屋町に集合し、宴会では久しぶりの同期たちと話題は古美研、京都、健康、趣味、年金などなど大いに盛り上がりました。あっという間に時間は経ち、宴会の最後は学生時代の合唱、さらに盛り

上がりカレッジソング、白亜の城と続き、締めくくりはIさんの指揮でお互いにエールを送りお開き！その後一つの部屋に集まっておしゃべりが続き、名残り尽きない一夜でした。

翌日は朝食後、近くのインダコーヒーでゆったりとモーニングコーヒー、そして夏合宿当時と同じようにいくつかの“班別コース”に分かれて京都市内を楽しみました。久々に学生時代に戻ったひとときでした。





毎年7月に皆さまにお届けしているこの『お知らせ』も本号で第6号となりました。今年は同窓祭中止や総会の書面開催の関係で、発行が2ヶ月ほど遅くなりました。

これまで同窓祭や当日開催される総会のご案内などを中心に、過去1年間に行われたイベントの実施報告や今後の計画、会員の近況などをお伝えしてきましたが、残念ながらこの半年ほど、いくつかのイベントが中止や延期になり、また今後の計画も見通せない状況です。早くコロナが終息し、再び贅会で多くのイベントを計画できる日を待ち望んでおります。

とはいえこんな状況下でも会員の皆さまは、日々お元気でお過ごしのことと思います。今回、4名の方に最近思うことや活躍の様子など自由テーマで寄稿していただきましたので、ご紹介させていただきます。

皆さん、コロナに負けずに頑張ろう！！

## ■ “雑感” 安東(稲用)洋子さん〔1969年教育学科卒・庭園班〕



暑い季節が巡って来ると、みなさまと同様あの遠い夏の合宿の日々が甦ります。昨年OB旅行で訪れた奈良では、懐かしい日吉館は文字通り跡形もなく、半世紀の時の流れを改めて思い知らされました。(このあたりでバックにはユーミンの曲?!)



日吉館のおかみさん  
(オバちゃん)  
“贅”10周年  
特別記念号より

個人的にも二～三回お世話になりましたが、或る時友人と二人、アポ無しで飛び込みました。おかみさんは、男子学生二人を玄関脇に移らせ、部屋を用意して下さいました。(何処かの大学生さん、その節にはすみませんでした。)

今までにも増して読書三昧の日々ですが、感銘深かった行がありました。

一番大切なことって、その中にいる時は、当たり前のことにはしか見えないのしょうか。ふいに失われるものがあって、さっきまでの日々が、どんなに豊かなことだったかに気づかされるのです。

何の屈託もなく過ごした学生時代をはじめ、両親、夫と見送った現在、気づくのが遅かったことが多いと、ほろ苦く思っています。

人生も終わりに近づいて、こんな世界に直面するとは……。この半年余の激しい変化に、驚きと共に畏れさえ感じます。文明の恩恵にずっと与って来た私達には、行く末を見届ける責任があるのでしょうか。

お互い元気で集う時が、一日でも早いことを祈るばかりです。

## ■ “四国城めぐり” 大溝(江藤)阿佐子さん〔1978年短大卒・工芸班〕



昨年の11月、2泊3日で四国の城を六城まわりました。四国には現存十二天守のうち四棟が残っています。これには軍事施設がなく空襲を免れたからではないかという説があります。

スタートは愛媛県今治城です。再建された城ですが、内堀を渡り藤堂高虎銅像の後ろにそびえる五層天守はとても立派です。

二つ目は湯築城跡です。道後温泉近くの湯築城は中世の城郭で石垣や天守がありません。しかし堀や土塁はしっかり残っています。

三つ目は現存十二天守のひとつ松山城(写真左)です。一部復元されていますが三重三階の天守をはじめ櫓や門など21棟が重要文化財です。立派な石垣や美しい建造物は見応えがありました。高台にあるので眺望も素晴らしいです。

四つ目は大洲城です。明治21年に天守は取り壊されてしまいましたが、四棟の櫓は残り2004年に四層四階の天守が木造で復元されました。しっくい白と黒の板壁が美しい城でした。

五つ目は現存十二天守の宇和島城(写真右)です。とても楽しみにしていた城で登城口から古い石垣を眺めながらのぼるときにはわくわくしました。

第一印象は「小さい」です。この天守の大きさは東御苑の富士見櫓とほぼ同じです。三重三階の天守はこじんまりとしていましたがすっきりと立ち見下ろす景色も最高でした。

最後は現存十二天守の高知城です。山内一豊が築城し一度焼失しましたが、1749年に四重六階の天守として再建されました。天守と現存天守では唯一残っている本丸が隣接しています。高知城も小ぶりですが追手門からの立派な石垣や重要文化財の塀や櫓、門など見応えがありました。

またいろいろな城に出かけられる時を楽しみに待ちたいと思います。



松山城



宇和島城



## ■ “孫の力” 伊藤幸和さん〔1977年経済学部卒・建築班〕

卒業してから早44年？今年67歳になり、立派な爺？になりました。若い頃は、こうなる事を想像さえ出来ませんでした。

美術業界に入り矢張り44年ずっと資金繰りに苦しみながら、現在は東京橋で小さな画廊を経営しております。世の中は何が有るか分からないもので、12年前は突然のリーマンショックでどん底へ落ち、立て直すのに3年がかかりました。

そして今年のコロナ禍です。ほぼ2カ月の休業を余儀なくされ、人生で初めて働けない辛さを味わいました。リーマンの時は毎日しっかり働いて、頑張れば何とかなりましたが、今回は働けなくても家賃、人件費等経費は毎月しっかり出て行く。このまま続いたら一体どうなってしまうのかという恐怖感がありました。

そんな中で私の救いになったのが自宅の近くに居る1歳4ヶ月になる孫の存在でした。近くなのでほぼ毎日触れ合う事が出来、娘の突然の病気により、毎日孫を風呂に入れるのが私の日課になりました。また毎日会っているので、日々変化していく孫の成長が分かります。

私には3人の孫がおりますが、2人は少し離れた所に居るので、たまに遊びに来てもようやく慣れた頃に帰り、次に会う時にはまた殆どゼロからのスタートになってしまいずっと辛い思いをしておりました。

自分でも爺バカだとは思いますが、この3人目の孫が可愛くて仕方がありません。そしてよくある話ですが孫が20歳になれば私は86歳になります。この孫の為に長生きしなければと考えてしまいます。

昔から仕事は80歳現役を目指してやって来ましたが、今年から90歳現役を目指す爺バカになってしまいました。



## ■ “おもしろ狛犬” 島田(野田)貴子さん〔1983年短大卒・絵画班〕

数あるサークルの中で古美術研究会を選んだ皆様は、寺社や神仏はもちろん、妖怪、霊獣などに興味がある方も多いと思います。

狛犬は、霊獣・神使と言われています。その源流はオリエント文明まで遡り、日本では宮中に置かれた一対の阿吽像が始まりとされています。阿像は口を開けた獅子、吽像は口を閉じて角の生えた狛犬です。その後時代を経て、現在では両方とも狛犬と呼ばれています。

(※狛犬の由来等には諸説あります。)

私の祖父は、福島県白河市で彫刻師をしており、狛犬、二宮金次郎、奉安殿などを製作していました。

今回は、白河市周辺のおすすめ狛犬をご紹介します。

ようこそ、狛犬ワールドへ♪

### ① 南湖神社 (写真上)

祖父・野田平業作です。

尾が渦を巻き、足元まで波の様に流れています。透し彫りの玉も見事です。玉が一部破損しているのは、3.11の震災時に落下したためです。これぞ狛犬の定番スタイル、勇敢な姿です。

### ② 熊野神社 (写真中)

私がハマるきっかけとなった狛犬です。

奇妙で可愛らしいお姿は、まるでゆる妖怪。

石工さんは、見たこともない狛犬を彫りあげるのに相当苦労したのでしょうか。

### ③ 石都々古和氣(いわつつこわけ)神社 (写真下)

白河付近には全国的にも有名な「飛翔狛犬」が見られ、こちらの狛犬は雲に乗り後脚を跳ね上げています。そして、吽像には3匹の子供がじゃれています。

作者の小林和平は、夭折した3人の我が子を想い、この様な親子愛溢れる作品を残しています。

狛犬巡りを始めて3年弱になります。

震災で津波に流された福島県浪江町の狛犬さん

千葉県習志野市のアイーン狛犬

これからも個性あふれる狛犬さんとお会いするのを楽しみに、神社を参拝したいと思います。



<会員の連絡先調査と個人情報の取り扱いについて>

事務局ではお一人でも多くの古美術OB・OGの方々の連絡先調査を行っております。皆様のご協力をいただきたくよろしくお願いします。なお、皆様からお預かりした個人情報は協会及び古美術活動にのみ利用し、それ以外には一切利用しません。(個人情報管理責任者=会長、個人情報管理者=総務担当副会長)

■発行日:2020年9月20日 ■発行責任者:長谷川和芳(74年卒) ■広報担当副会長:亀村 通(78年卒)

■連絡先:<Eメール> ishيداتamikai@gmail.com <携帯電話> 亀村080-9556-7145 長谷川070-3824-2800

■ホームページ:http://ishيداتamikai.jimdo.com/ ホームページの「お問い合わせ」ページからもコンタクトできます。